

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第2回 臨界管理手法分科会 (F6SC) 議事録

1. 日時 2003年4月21日 (月) 13:30~16:30

2. 場所 日本原燃 (株) 東京事務所 第一会議室

3. 出席者 (敬称略)

山根 (主査), 松本 (副主査), 板原 (幹事), 江頭, 大澤, 奥野, 河内  
須藤, 野田, 浜崎, 牧口, 三澤, 三谷, 三橋, 三好, 持田 (16名)  
(欠席委員) 藤田 (1名)  
(常時参加者) 津田, 内藤, 宮川 (3名)  
(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F6SC2-1 第1回 臨界管理手法分科会 (F6SC) 議事録 (案)  
F6SC2-2 標準委員会の活動概況  
F6SC2-3 臨界安全管理の事例等  
F6SC2-4 臨界管理手法分科会の活動 (次期テーマ選定) について

参考資料

F6SC2-参考1 臨界管理手法分科会委員名簿  
F6SC2-参考2 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 17名の委員中16名の委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (12名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より, F6SC2-1により第1回分科会議事録の確認を行い承認された。

(3) 標準委員会等の活動状況報告

事務局より, F6SC2-2により標準委員会等の活動状況報告があった。なお, 山根主査より前回第13回原子燃料専門部会にて中間報告が行われた輸送容器の設計検査基準に臨界安全に関する多くの附属書が含まれていることが報告され, 臨界の専門家としてレビューを行うこととなった。別途事務局より該当部を分科会委員へ送付し, 2週間程度でコメントを事務局まで送付することとなった。

(4) 標準化の進め方について

a. 臨界安全管理の具体的事例について

各委員より, F6SC2-3により原子力発電所サイト, 研究用原子炉施設, 燃料加工施設, 再処理施設における臨界安全管理の具体的事例について説明があり, 異なる施設間の管理方法の違い・特徴を, 以下の項目を中心に確認した。

- 原子炉燃料取り替え時の制御棒操作確認方法
- 保安教育の実施計画作成者と承認方法
- 品質監査結果と指導
- マニュアル類の承認手続き
- 原子燃料の未臨界状態確認方法
- 事業所内安全委員会等の開催頻度, マニュアル類の審議方法
- 事業所内安全委員会等の構成, 社外委員の参加
- 保安規定における品質保証活動の扱い
- 非常作業における臨界安全管理
- 教育訓練の資格認定
- 核燃料取扱主任者の独立性
- 内部監査における核燃料取扱主任者の位置付け
- 運転要領と作業手順チェックリスト等の運用例
- 小規模施設の質量管理方法
- 人的な質量, 濃度管理の二重化
- 現場における実務者の役割
- ユニットの管理とシステム管理の関係
- ANS, DOEの例

b. 学会標準の位置付けと進め方について

大澤委員より、F6SC2-4により学会標準の位置付け、目的からテーマ選定において考慮すべき事項について説明があり、許認可への適合性をテーマに以下のような例が示された。

- ・ 核燃料サイクル施設における保安規定を先取りし、盛り込むべき骨子や明確にすべき所をガイドラインとして示す
- ・ 臨界安全管理における人的管理の最適化
- ・ 教育訓練用のテキスト

c. まとめ

今回の議論を踏まえ、各委員の所属組織内の意見を反映して標準化すべきあるいは標準化を強く希望する具体的テーマを、各委員が提案することとした。なお、必ずしも今回紹介された事例にこだわら無いことを確認した。但し、提案するテーマが複数の場合は、平行して作成すべきか、優先順位を付け順次作成すべきかを明示する。

(5) 今後の予定

次回第3回分科会を6/9午後開催することとした。

以上